# 大ナゴヤ大学

平成22年度報告資料

**NPO 法人 大ナゴヤ・ユニバーシティー・ネットワーク**

**日付** 平成 23 年 6 月 25 日

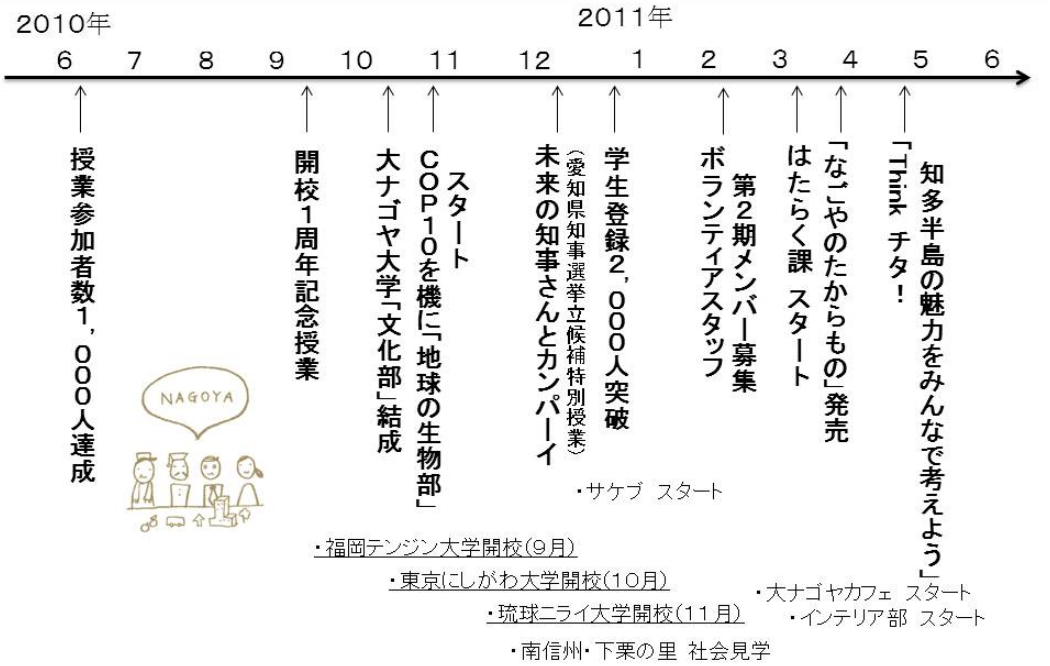
**大ナゴヤ大学 開校前準備室当時から NPO 法人設立。事業二年目（3 月末まで）のふりかえり**

本資料は、NPO法人として2年目を終えた大ナゴヤ大学の活動を振り返る報告資料です。

今後も、具体的な評価指標、事業ごとの単年度評価・今後の展望を掲載し、大ナゴヤ大学の現状を広くステークホルダーの方々に公開していきます。

※本資料は、平成 23 年 6 月 25 日に開催する、大ナゴヤ大学報告会にて配布・説明を目的とした資料です。

## 平成22年度 活動内容




## 大ナゴヤ大学開校1周年記念授業

2009 年 9 月に、無事開校することが出来た大ナゴヤ大学。そこから 1 年後となる、2010 年の 9 月には「1 周年記念授業」を行いました。大ナゴヤ大学のコンセプトのひとつでもある、「街がキャンパス」をテーマに、なんと名城線をすごろくのボードに、生徒さんとスタッフをすごろくの駒に見立て「名城線リアルすごろく」を楽しみました。

1 チーム 5,6 名で、なんと 15 チームがそろい、それぞれ本当にサイコロを振って名城線を進んでいきました。金山をスタート地点として、ほぼ全ての駅にミッションが設けられました。栄では「社長と一緒にテレビ塔の未来」を語ったり、黒川では「街の酒屋さんで利き酒」を楽しんだり、また名古屋ドーム前矢田では、ちょうどドラゴンズの試合があり、「ファンにドラゴンズ愛をインタビュー」してくるなど、本当に多彩なミッションが次々と繰り広げられました。

最後はスタート地点でもある金山駅に全チームがゴールし、その後感想をシェア。半日に及ぶ長い授業でしたが、笑顔が沢山溢れる、1 周年記念にふさわしい授業だったと思います。

「名城線という野外が教室。」

「100 名ほどの大きなイベント。」

それでいて楽しく無事に終えることが出来たのは、開校から 1 年、失敗を繰り返しながらも丁寧にやってきた結果であり、スタッフが成長できた結果だったのではないかと思います。また、生徒さんの中にも「名物生徒さん」が何人も現れて下さり、皆さん大ナゴヤ大学の楽しみ方を熟知していらっしゃいます。そして、それを他の生徒さんにも伝えて下さる。そんなステキな連鎖が大成功の大きな要因だった事は間違いありません。楽しかった1周年記念授業は大ナゴヤ大学をぎゅっと凝縮したステキな授業となりました。

Dai-Nagoya University Network, all rights reserved

## 初のシリーズ授業　文化部結成　なごやのたからものプロジェクト

2009 年 6 月、開校を 3 ヶ月後に控えて行ったオープンキャンパス授業で好評を博した「名古屋名物シリーズ：“ういろう”の魅力と未来を考えよう！」。

この授業で先生の一人として東京からお越しいただいた、文筆家の甲斐みのりさんとの雑談をきっかけに、大ナゴヤ大学企画メンバー、佐藤・谷を中心に、今までにない「なごや案内本」の出版を企画。名古屋を中心とした愛知県内の取材先をリサーチし、翌年夏、名古屋の出版社・リベラル社へ企画を持ち込み出版が決まりました。執筆を快諾してくだった甲斐さんとともに、出版に向けたロケ、取材を行い、2011 年 3 月末、大ナゴヤ大学の企画として書籍『なごやのたからもの』を出版しました。

本の制作と並行して、大ナゴヤ大学・文化部を結成。2010 年 10 月～2011 年 4 月にかけ、部活動として約 20 名の部員さんとともに「本づくりを愉しむ会」を実施。部員さんが各自一冊、自分だけの名古屋本の作成に取り組みました。

さらに『なごやのたからもの』出版と同時に制作メンバー、佐藤・谷・森田・青木を中心に「なごやのたからものプロジェクト実行委員会」を発足。

〇ずっと残したい、残ってほしい”なごやのたからもの”探しと紹介
〇長く続けること、継続することの大切さ、魅力を伝える
〇同じまちで暮らすお年寄りと若い世代をつなぐ
を主な目的として、たからものツアーや定期刊行物の発行など、今後も幅広い活動を行っていきます。

## 「COP10」を機に「地球の生物部」スタート

昨年 10 月に名古屋で開催された「COP10」。大ナゴヤ大学では、その会場（名古屋国際会議場）に隣接する白鳥地区で開催された生物多様性をテーマとした国際的な発表・交流展示会、「生物多様性交流フェア」で名古屋市が運営するブースのディレクション・デザインを担当。「なごや環境大学」などと連携し、ブースを作り上げました。

併せて「自分たちでも生物について身近に考えるきっかけを作ろう」と、広告代理店の「新東通信」、デザイン事務所の「ピース・グラフィックス」と共に、生物について考える部活動「地球の生物部」を立ち上げました。

同部では、グラフィック表現のデザイン性を高め、コピーワークを親しみやすいものにすることで、視覚的な興味から「生物」について考えるきっかけになるよう様々な工夫をしています。その活動はこれまで、「ソトコト」など様々なメディアで取り上げられてきました。

こうした流れの中、2011 年 3 月からは、「地球の生物部」と「なごや環境大学」との協同企画「地球の生物部となごや環境大学」を始動。それぞれのノウハウを集め、より多くの人々に生物の営みを「自分ごと」として考えられるような仕掛けを展開しています。

## 愛知県知事選挙立候補者特別授業の開催

テレビや新聞などのメディアの方たくさん取材時に訪れ、会場の熱気はムンムン。

そんな中で行われた授業は、前半は、各候補者の人生年表を見ながら、どこで生まれて、育ち、どんな成功や失敗があったのか、他では聞けない候補者の素顔に迫るお話が伺えました。人生、誰も楽な道はなく、各候補者さまの苦労や、山アリ谷アリの人生が、候補者のみなさんを身近に感じることができました。

後半は、「Think アイチ！」と題して、生徒さんも含め、会場のみんなで愛知の未来を考えるワークショップ。はじめて会った生徒さんたちが、真剣に愛知県の魅力やどうしたら愛知県がより暮らしやすいまちになるかを考え、話し合う。この光景は、本当にすばらしかった。こういう機会が選挙の度にあれば、もっと政治に関心を持つ人が増える。そう確信しました。

最後は、各チームで決めた未来の愛知のキャッチコピーを発表。年齢も性別も職業も違う、同じまちに暮らす人同士が、こんなに真剣に愛知のことを想っている。知事候補者のみなさんも感じてもらえたことでしょう。政治は、選挙は、「他人ごと」でなく、誰もが「自分ごと」として考えるべき。そう誰もが感じた一日になりました。

Dai-Nagoya University Network, all rights reserved

# 「大ナゴヤ大学×〇〇」コラボレーション授業の開催

企業や団体とのコラボ授業が多数開催した今年度。3 回開催したアサヒビール様とのコラボ授業「〇長さんとカンパーイ！」は社長、館長、駅長…といった色々な「〇長」さんと、お酒というコミュニケーションツールを使っておしゃべりしようというコンセプトで開催。水谷孝次社長の笑顔のメリープロジェクト、東山動植物園の小林弘志園長によるガイドツアー、岐阜県のパン店グルマン・ヴィタルの鈴木政裕社長によるパン作りの熱いお話…など、ビール片手にほろ酔い授業を行いました。

中日新聞社様とは環境をテーマにした親子参加の授業を mozo ワンダーシティで開催し、こけ玉作り体験で環境について考えるきっかけを報知。また名古屋パルコ様でも同様の授業を行い、共にオープンな教室での開催でたくさんの方へのPR も実現。

開校からのお付き合いの雀おどり總本家様では、オリジナルかき氷を提案・制作する授業を開催。おいしそうなものから、驚きの一品まで揃い、中には店主が感心するかき氷のアイデアも登場。名古屋で活動する NGO ア∞スとはメンバーが活動するゴミ拾いレンジャーを体験。5 色のレンジャースーツに身を包んだ生徒らが名駅でゴミ拾いをしました。ア∞スの理念通り「つまらないことをオモシロく！」を実現。

【アサヒビール】
「〇（まる）長さんとカンパーイ！」

【中日新聞社】
親子で参加しよう！mozo で“みどりのともだち研究室”

【名古屋PARCO】
“みどりのともだち研究室”親子で育む、「つくる、キモチ。そだてる、ラブ。」

【雀おどり總本店】
真夏の夜のかき氷大会＆交流会

【NGO ア∞ス】
あなたもナゴヤのヒーローになれる！ごみ拾いレンジャー体験授業！

【Think Pearl】
たしなみとして学ぶ、大切なカラダとの付き合い方

# 姉妹校との連携講座開催

2010 年 5 月 29 日、東京・渋谷の「たばこと塩の博物館」においてシブヤ大学・札幌オオドオリ大学・大ナゴヤ大学・広島ジン大学の学長と各姉妹校代表の授業コーディネーター、および JT（日本たばこ産業）パブリックリレーション部の方が同席し、全国会議を実施。

「おとなとは？」をテーマに、各姉妹校が授業案をプレゼンテーションした後、JT の方々も加わりグループワークを実施。実際の授業案をディスカッション。

その場で挙がったグループごとの授業案をそれぞれの姉妹校に持ち帰り、22 年度内に各校で授業として行うことを目指し、準備がスタートしました。

大ナゴヤ大学では 11 月 14 日に「おとな学科　開講！お茶に学ぶ“おもてなし”の楽しみ　～自分らしい心づくしのかたちとは？　おとなのホスピタリティを考える～」と題して、茶道の師範・谷口剛久先生による授業を行いました。教室は名古屋市昭和区にある築 70 年を超える茶室「古今庵」。

夕方から夜にかけての時間帯に、幻想的な雰囲気の中、おとなの心得としてぜひ身に付けたい「大切な人をもてなす心＝ホスピタリティの極意」を茶の湯の世界から学ぶ有意義な時間となりました。

【JT（日本たばこ産業）】
おとな学科　お茶に学ぶ“おもてなし”の楽しみ

【博報堂　こどもごころ製作所】
たった一枚のナゴヤ

# 他エリア（他県・周辺地域）への展開

授業を通してナゴヤと他地域が連携する取り組みが広がり始まりました。長野県飯田市職員でもあるボラスタが懸け橋となり、下栗の里との交流がスタート。下栗の里は「天空の里」とも呼ばれるほどの標高 1,000mにある山あいの集落です。30 年近く下栗に通っている名古屋大学の浮葉正親先生と、下栗の里で生まれ育った野牧和将さんによる研究プロジェクトの発表を見学する事前授業も行いました。

民宿に滞在し一泊二日で訪れた社会見学では、昔ながらの農耕具を見せてもらったり篠笛を体験したり、伝統料理に舌鼓も。年に一度の「ふれあい祭り」で地元の方たちと一緒に地元の野菜を販売するなど、都会ではなかなか味わうことができないふれあいばかり。都会と地域の今後の交流の発展も楽しみです。

知多半島エリアでは、「常滑クラフトフェスタ 2011」内での特別授業「Think チタ！」を実施。「Think チタ！」では「知多半島だから学びたい、学べること」を皆で考える第一歩をつくろう、という公開ワークショップを行い、一緒になって知多半島の魅力を考えました。

Dai-Nagoya University Network, all rights reserved

# 行政・関連団体との取り組み

2010 年 07 月には、愛知県警の要望で、防犯についての啓蒙活動をお手伝いしました。県警が単独で啓蒙活動を行うと、メインターゲットではなく年配の方が多く、犯罪につながりやすい若い女性になかなか届かない。といった理由で、大ナゴヤ大学の授業を通してお手伝いする事になりました。愛知県は全国的にみても犯罪発生件数トップクラスです。それは、地域住民が安心して暮らしている証拠でもあるのだそうです。

そこで、大ナゴヤ大学では防犯ブザーを身につけてもらえる様に、県警の警部と、ネイルサロンのデコレーションのプロの 2 名を先生にお迎えし、防犯ブザーにデコレーションをしてもらい気軽に楽しく危機意識を高める授業を行いました。結果、教室では和気あいあいとデコレーションのワークショップを行い、デコレーションされた防犯ブザーをオシャレ感覚で身に付けてもらえるようなイメージで、愛知県警の防犯啓蒙活動を行えました。

2010 年 11 月に名古屋市職員の方々、翌年 2 月には愛知県職員の方々に向けた授業を行いました。行政の様々な機関で市民・県民のために働くみなさまが集まる場で、大ナゴヤ大学を知っていただき、いかに大ナゴヤ大学を活用し日頃抱える問題解決のヒントにしていただくか。また、職員同士の横のつながりをつくることにより、自分の職場だけでは解決できない事柄を、横のつながりを通していかに解決していくか。それらの課題を、「大ナゴヤ大学で授業をつくるならどんな授業？」といったワークショップを通して感じていただけたと思います。

さまざまな NPO 法人などの外郭団体と、委託事業や協同事業が行われている中、もっと持続可能で実質的な行政サービスや効率よく結果を出していく仕組みづくりなど、大ナゴヤ大学と行政の関わり方次第で、新しい公共と呼ばれる分野でも、より良い姿での実現の可能性を感じました。

【愛知県警本部】
赤ずきんちゃん、気をつけて！弱者を狙う犯罪の実態と防犯について学ぼう

【名古屋市】
名古屋市職員のためのなごやカフェ　特別授業　「大ナゴヤ大学オープンサロン」

【愛知県】
愛知県職員のための特別授業「大ナゴヤ大学×職員交流会」

# 地域資源を活かした講座・観光プロモーション展開

大ナゴヤ大学ので行った授業の先生・お店・場所など、さまざまなネットワークが広がっている中、「地域資源」としてそれらを「バスツアー」の企画として取り組むものも生まれました。

その1つが、「武将都市ナゴヤ　おもてなしバスツアー」です。名古屋観光コンベンションビューロー様の「平成 22 年度『武将都市ナゴヤ』魅力発掘選定事業」。採択を受けた名阪近鉄旅行社様（カッコーツアー様）の企画サポートを大ナゴヤ大学が行いました。

おもてなし武将隊の窓口紹介、大須の食べ歩きチケットの企画や堀川クルーズの先生紹介などをさせていただきました。バスツアーで大須を訪れたツアーのお客様を大ナゴヤ大学のスタッフ、大須案内人がお出迎え。萬松寺の説明を受けた後、大ナゴヤ大学のボランティアスタッフがガイドを行い大須内を食べ歩き。

当初 5 回の予定が、予想以上の申し込みもあり、12 月に 3 回追加され、全 8 回となりました。総合計 473 名に楽しんでいただく事ができました。

また、三重県の協力により、「伊勢茶」をテーマにした「お茶育」授業を実施。こちらもバスに乗って飯南地区を訪れ、茶もみ体験や「伊勢茶マイスター」深緑茶房の松本さんにお茶をいただき、伊勢茶に合うオリジナルスイーツを食べるツアーを行うことができました。

参加者がその後、お茶の淹れ方で学んだ「ゴールデンドロップ」を披露する機会が生まれたり、伊勢茶に似合うスイーツをつくる「食ゼミ！大ナゴヤキッチン」など、授業がきっかけとなり新たな取り組みが生まれています。

Dai-Nagoya University Network, all rights reserved

# 市民活動のひろがり①　長者町ゼミ

大ナゴヤ大学の授業から生ませた長者町ゼミでは、平成22年10月23日（土）・24日（日）のえびす祭り出店準備の為、各担当別（出店隊、ロゴ隊、マップ隊）のグループを作って活動してきました。

えびす祭りでの出店内容は、①長者町のハギレで作ったランチバックなどを販売、②「ペーパーバックにハギレでコラージュ」ワークショップ、③ゼミ生が町案内（ぶら長者）です。商品は完売、ワークショップ、「ぶら長者」には、沢山の方に参加して頂きました。

また、大ナゴヤ大学初の生徒が先生になった授業「“スキ”のある町、長者町。～大ナゴヤ大学・長者町ゼミ流、長者町の歩き方～」を実施することができました。えびす祭り後も、「新春長者町カルタ大会開催」、「長者町×長者町ゼミ　カルタ対決」（カルタ語り大会：4月8日）、町で何かイベントをやって見たいという事から始まった活動「今日ハ長者町〇〇」（第一回は、「今日ハ長者町“映画館”」）など、様々活動を実施しています。

現在、一部ではありますが、町の方達との交流も増えてきており、長者町ゼミの認知度も少しずつではありますが上がってきています。今年度の長者町ゼミの活動は、「町を知る一年」でした。来年度は、えびす祭りを始め、カルタ大会などのイベント活動を通じて、「町と繋がる一年」にしていきたいと思っています。

# 市民活動のひろがり②　食ゼミ

食ゼミは、大ナゴヤ大学通常講座「野菜を知る、触れる、アートする。～マルシェ・ジャポンでカービング体験～」に参加した、大ナゴヤ大学の生徒さんやボラスタから、もっと「食」について勉強・探求してみたいという声があがり、結成されました。

現在、ゼミ生の数は 45 名で、調理実習、社会見学、農業体験、広報と各チームに分かれて活動を行っています。

調理実習チームは、月に1回、大ナゴヤキッチンを開催し、「ロールケーキ」、「じゃがいものニョッキ」など、様々なメニューの作り方を楽しく教えています。社会見学チームは、葡萄農園の見学を実施し、葡萄の栽培方法を学んだりしました。農業体験チームは、葡萄栽培を実際に体験したり、市民農園を借りて本格的な農業体験を企画しています。

また、食ゼミが発足するきっかけとなったマルシェ・ジャポンに、出店をしました。テーマは「マルシェの野菜を使った秋のレシピ大公開」。食ゼミのメンバーがレシピを考案し、試食やレシピの配布を行い、たくさんの方に来てきただきました。

さらに、食ゼミのゼミ生が中心となり、美味しいスイーツをみんなで食べに行く、スイーツ部が生まれるなど自主性も生まれ、活動はさらなる広がりをみせています。

# 初の課活動　「はたらく課」スタート！

大ナゴヤ大学姉妹校、シブヤ大学には「しごと課」という課があります。シブヤにはたくさんの生き方、働き方があり、しごと課では、しごとを知る・見る・探す場となっています。ここ大ナゴヤ圏でも、“はたらく”事について考えていこうと始まりました。

初回の「大ナゴヤ大学しごと課（仮）ミーティング」（活動開始当初の名称は“大ナゴヤ大学しごと課”となっていました。）では、まず「自分がどう関わりたいか？」を考え、想いをシェアしました。そして、次の展開として、この課の“キャッチフレーズ”を考えようという事になりました。

メンバーそれぞれの想いをふまえた上で、それぞれがキャッチフレーズを考え発表。考えたキャッチコピーから、沢山のキーワードを出していき、「気づき」「出会い」という2点が残り、最終的に『そんな“はたらく”との出会い』という活動のコンセプトが凝縮されたキャッチコピーができました。

また、このキャッチコピーを元に、課の名称を「大ナゴヤ大学はたらく課」に正式決定しました。

今後の活動内容は、大ナゴヤ圏ではたらく“人”や“職業”を取材し、ホームページなどで紹介していき予定です。7月の活動開始を目指し、現在準備中です。

Dai-Nagoya University Network, all rights reserved

## 授業以外での活動・交流の場（えんづくり）の広がり

大ナゴヤ大学の授業や授業後の大コン会（大ナゴヤ懇親会）がキッカケとなり、授業以外での活動・交流の場となる部活動や同好会が生まれました。

サケブは酒部。お酒を楽しむ利き酒の授業から発足しました。部員の多くが女性、しかもお酒を飲んだことのなかったメンバー。先生をしていただいた酒屋の店主林さんと酒蔵見学をしたり、みんなでお酒に合わせてみたい一品を持ち寄るミーティングを開催。今では、すっかり日本酒にはまっています。日本酒文化を広める活動につながりそうです。

えんづくり部大ナゴヤカフェ。録年会（忘年会）に集まったメンバーの発案。『授業以外で集まる場がほしいね』とカフェ開催を決定。毎回メンバーの手作り料理やスィーツと笑顔でおもてなし。収益は大ナゴヤ大学へ寄付。普段授業に参加できない子育て中のママがご家族と来店したり、授業をしていただいた先生、興味を持っているけど授業に参加したことのない方、他のNPO団体等、大ナゴヤ大学と接点を持つ交流の場になりつつあります。

授業から生まれたインテリア部。部員の条件は、インテリアや暮らしに熱い想いを持っている人。「ヒト・モノ・くらし」をテーマに、見た目の「インテリア」だけでなく、モノとの向き合い方/関わり方まで含めた、「暮らし」について考えます。活動は、ブログで自分のお気に入りのインテリアを紹介したり、大手家具メーカーのショールーム見学など、インテリアにまつわる様々な企画を実施。6月にはインテリア部の部員が先生となり、「収納」についての授業が行われました。

大ナゴヤのメンバーを中心に、初心者も参加でき性別や年齢関係なく参加できるスポーツ「フットサル」を楽しんでいます。授業にも参加された外国人メンバーなど国際色豊かな同好会、言葉が通じなくても身振りやアイコンタクトによるコミュニケーションでプレーできることも学べます。女性の参加も増えてきました。

## ボランティアスタッフの活躍・成長

大ナゴヤ大学の運営を支えるボランティアスタッフ（通称ボラスタ）は、有志により毎月第 4 水曜日に”いこまい会”を行っています。もともとはボラスタミーティングという名称でしたが、メンバーが参加しやすく、かつ名古屋らしい名前を考えた結果「いこまい会」という名称に決まりました。この会は情報交換・共有や、メンバーの交流、新たな取り組みの相談などを目的としています。

大ナゴヤ大学の活動の拡大に伴い、今期はオープンキャンパス以来の大規模なボラスタの募集を行いました。20 名以上の応募者の中には、「生徒として参加して、自分もスタッフとして携わりたいと思った」という方も多数いらっしゃいました。

その後、希望者に向けた説明会と懇親会を実施。スタッフとしての役割や活動に対する想いを共有し、新たにボラスタとして大ナゴヤ大学の一員となったメンバーも、今後の活動の一端を担っていきます。

そして大ナゴヤ大学の活動も 1 年半を超え、さらなる地域資源の発掘・発信を行う目的から、授業コーディネーターの育成を主にした”大ナゴヤ大学 つくり方学科”を行いました。この授業は、授業コーディネーターとして最も大切な「バランス感覚」「フェアーであること」を、今までの授業に関わってきたボラスタを対象に行われました。

現コーディネーターのフォローを受け、メンバーは授業の早期実現に向けて動き出しています。

Dai-Nagoya University Network, all rights reserved

## 大ナゴヤ大学物語　名古屋大学院生　内山君　修士論文

ゼミの研究発表で「コミュニティは今」というテーマで記事を取り上げようと取材に訪れた 09 年の 11 月、名古屋大学大学院 国際言語文化研究科 多元文化専攻メディアプロフェッショナルコースの内山 裕幾さんに初めてお会いしました。

その後、「コミュニティのあり方」をテーマに大ナゴヤ大学への精力的な取材が始まり、最終的にノンフィクション小説と解説の要素を取り入れた「大ナゴヤ大学物語」として修士論文を作成していただきました。

私たち大ナゴヤ大学の活動、スタッフやボランティアスタッフや参加者へのヒアリング、草創期のメンバーや姉妹校シブヤ大学へのヒアリングなどを重ねたその論文には、今のコミュニティへの在り方、活動する人達、何かを見つけ取り組もうとしているスタッフの今、NPO の現状が語られています。

今後、出版あるいは大ナゴヤ大学ホームページ内などで一部掲載する予定となっていますが、その内容には、スタッフやボランティアスタッフも感動の内容でした。エピローグは、愛知県知事選挙の授業で締めくくられた内容は、これからの大ナゴヤ大学にとって、あるいは社会貢献活動の分野やコミュニティ再生に今後取り組もうという人にとっても示唆に富むものでしょう。

## 実験室プロジェクト。データ蓄積と分析・提言

大ナゴヤ大学では、開校前オープンキャンパスの時より、名古屋工業大学大学院 伊藤孝紀研究室との共同作業で大ナゴヤ大学の活動を通した、「イベント・オリエンテッドなまちづくり」研究に取り組んでいます。

大ナゴヤ大学が毎月行う授業の地区エリア・授業のタイプ・講座内容で街のイメージやブランディングがどのように変化していくか、実際にアンケートなどを利用し、定量的・定性的に分析しています。

①授業づくりの企画への反映

②街づくりを地域で行う上での重要なデータとして活用

③授業を行う過程での出来事、授業実施後の広がりや継続的な活動を事例として観察し、客観的に分析していくことで、今後のまちづくり、イベントの参考資料、地域の合意形成などに有効な検証事例となるように取り組んでいます。

今後、継続的な活動、合意形成、人間関係や対話、NPO マネジメントなどの教材としてもオープンな形で協力を行っていきます。

## 震災による初の休講。震災支援の取り組み

3 月 11 日に発生した東関東大震災。翌日、大ナゴヤ大学は授業を控えていた事もあり、深夜～早朝まで経過を見守り、初めて「休講」を決断致しました。

翌週より、インターネットの寄付サイト「Just Giving Japan」のサイトを利用し被災地支援の NPO 団体「CIVIC FORCE」の支援を表明。50 万 1 千円の寄付を同サイトを通じ集める事ができました。

その後、授業で募金として集まった金額を地域の NPO や義捐金として寄付を行っています。

また東海 3 県の地域の NPO、学習ネットワーク等と広く支援ネットワークを組み、情報共有や互いの資源の相互活用など、今後を見据えた取り組みや支援を実施していきます。

【他の寄付実績】NPO レスキューストックヤード様へ 3 万 5,000 円の寄付。（授業参加者への 1 コイン簿募金の一部、、大ナゴヤカフェ運営収支差額からの募金）

Dai-Nagoya University Network, all rights reserved

## ラジオ放送での「生涯学習コーナー」

2010 年 4 月 5 日より、CBC ラジオ様の番組「ごごイチ」内で大ナゴヤ大学の授業などを紹介する「生涯学習」コーナーがスタートしました。

授業を手がけた先生や授業コーディネーターが出演し、CBC アナウンサーの森合康行さん、夏目みな美さんによる進行で、楽しく授業の内容、趣旨、当日の様子、また授業告知などをさせていただいています。ラジオを聞いて大ナゴヤ大学を知った方、実際に授業に参加した方なども多くおり、大きな効果がある活動の一つです。放送は毎週月曜日 13 時 30 分ころ。

また、この活動をきっかけに 12 月には CBC ラジオ様での授業が実現。森合康行さんをはじめとしたアナウンサーの方を先生に迎え、ラジオとって最も重要な音にスポットを当てた内容で、生徒さんが録音してきた、それぞれの「これこそ名古屋の音」という音楽や日常の音を活用し実際に番組を収録。気づかなかった名古屋の特徴の見える授業になり、番組は 12 月 28 日に大ナゴヤ大学のためにいただいた 2 時間の特番で放送しました。

## Web経済新聞ネットワークとのメディアミックス展開

名駅かいわいと栄かいわい、それぞれの地域に特化したウェブ情報発信サイト「名駅経済新聞」と「サカエ経済新聞」。記事にしていただいた大ナゴヤ大学の授業や企画は、地域特化型の媒体がゆえ、大ナゴヤ大学としてもターゲットの中部エリアに向けた告知につなげることができます。また、記事はツイッターなどを使い二次的に紹介し、有効的に活用し、より幅広く発信しています。

ゆくゆくは商業施設や企業など、地域が大ナゴヤ大学を応援している姿を記した広告を紙面に掲載し、地域にとって欠かせない大ナゴヤ大学だということをメディアを通し PR していきたいです。

今後は街の動向を追いかける 2 媒体の編集長を先生に立てた授業を実施する予定。実際に生徒さんの足で情報を見つけ記事にしてもらい、ニュースとして掲載するところまでを手がけてもらうことを考えています。

また、ほかの媒体とのミックスの展開も想定。

## マスコミ実績

2010 年度は、（テレビ・ラジオ・WEB 新聞・雑誌・会報誌など）50 件以上、取材いただきました。特に大きく報道されたのは、愛知県知事選挙特別授業でした。こちらは募集段階から記事となり、当日は圏内の各メディアの方々に取材いただきました

また、CBC ラジオ「月曜ごごイチ」生涯学習コーナー（メインパーソナリティー：森合康行さん）での、毎週、授業や先生の紹介をいただくコーナー、中部経済新聞でのコラム「大ナゴヤ大学学長が経験する『社会起業』とは？」全 12 回連載、スパイマスター東海版「名古屋イチ受けたい授業」コラム（継続中）など、定期的に大ナゴヤ大学の活動を紹介・報告いただくコーナーが生まれています。

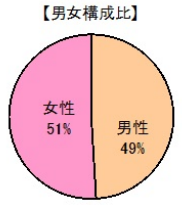
その他、「地球の生物部」の活動が、ソトコト 4 月号特集「あしたの社会貢献 100」で紹介されるなど、大ナゴヤ大学がコラボで取り組む活動を全国にも知っていただく機会が生まれました。3 月には、中京テレビ「ゲンキのトビラ」で「人と街が結びつく感動を作っていく社会起業家」として学長を紹介いただく中で、授業の様子や笑顔で参加する皆さんの姿が映し出されました。

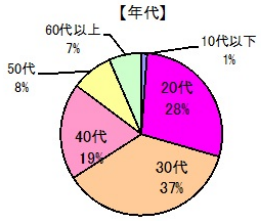
Dai-Nagoya University Network, all rights reserved

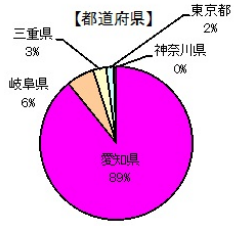
# 学生登録状況・属性

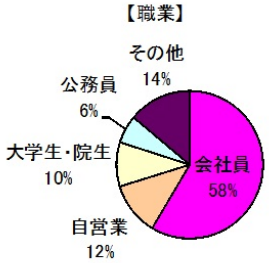
## 学生登録者の属性について（年代・都道府県・職業・ナゴヤとの関係）

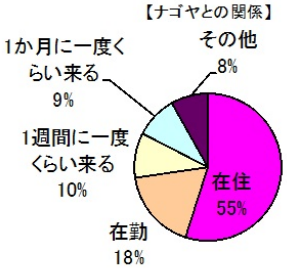
会員数：2286人（男性：1122人 / 女性：1164人）※2011年6月20日現在



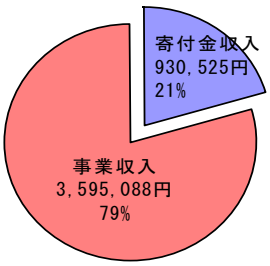




昨年（報告会時点：1,493）人に比べ、793 人の増加となりました。昨年度と比較すると、男女比はほとんど変わらず推移し、年代では 20 代・40 代の構成比率が増えました。

「親子で学ぶ」授業などを複数回経験し、親子参加の数は増えましたが、10 代の伸びは微増です。今後もこの「生涯学習に関わる中で、20 代～40 代が積極的に参加」する状況を作り出しつつ、さらに広い世代の参加を促していきます。企業・行政のコラボレーションのリクエストにも幅広い世代からターゲットを明確にして取り組むことまでできる参加者属性を重視いただいています。

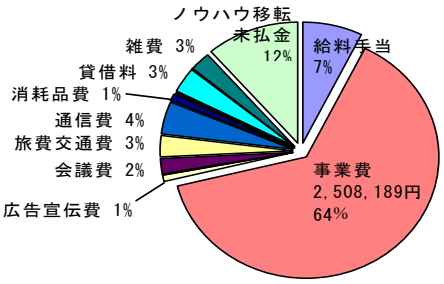
# 収入状況

平成２２年度　収入内訳




総収入
4, 525, 613円

平成２２年度　支出内訳




総費用
4, 348, 061円

H22 年度の総収入は 4,525,613 円、総費用は 4348,061 円であり、純利益額は 192,039 円となりました。

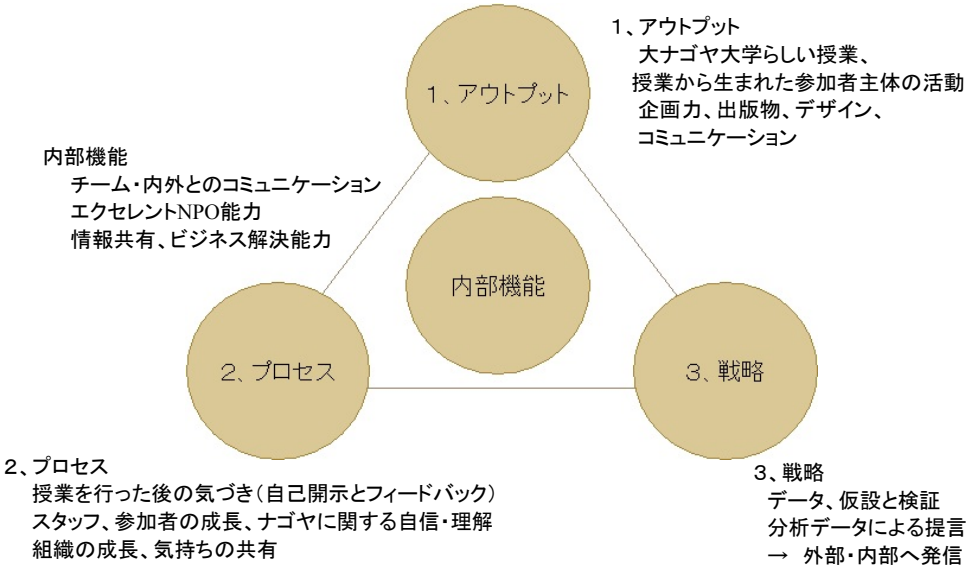
収入面では、H21 年度の収入比率（寄付金収入 85%・事業収入 15%）に対して事業収入の占める割合が飛躍的に増加し、比率がほぼ逆転しました。H23 年度はまず寄付金体制の見直しを図り、これまでの 88,888 円から間口を広げ幅広い層からの寄付を募るとともに「えんづくり」に力をいれて参ります。次に企業スポンサー様との連携を強化し、タイアップ企画や協賛メニューの拡充を図ります。さらに行政による助成金・補助金事業の実施を見据え、組織の体制を強化したうえで取り組んで参ります。これらを通し、安定的かつバランスの取れた収入基盤を目指します。

支出面では H22 年度にてシブヤ大学へのノウハウ移転費を完済しました。次年度以降はこれらの割合が 0 となるため、給料手当や他の支出に充てることができるようになります。

加えて H21 年度までと大きく異なる点として、H22 年度は職員 1 名に対し実質の人件費の 1/3 程度となりますが、3 か月分の給料手当（9 万円弱）を捻出することができました。H23 年度はこれらの継続的な支払いと有給職員 2 名体制の実現に向け、財務基盤をより安定的なものにして参ります。

Dai-Nagoya University Network, all rights reserved

# 大ナゴヤ大学の成長軸




平成 22 年度は、「大ナゴヤ大学らしさとは何か？」・「地域のさまざまな団体・企業・行政とどのように協働を進めれば良いか？」を模索した 1 年間でした。

また、特に東京からスタートした「シブヤ大学」のノウハウを取り入れつつも、ナゴヤという特性、人的気質、地域コミュニティへの市民参画の度合いや他の NPO の先進事例とも比較・検討し、この地域への「ローカライズ」を試行錯誤した期間でもありました。

「ナゴヤで成功すれば、それは日本や世界にも通用するモデルになるのではないか？」と考えています。

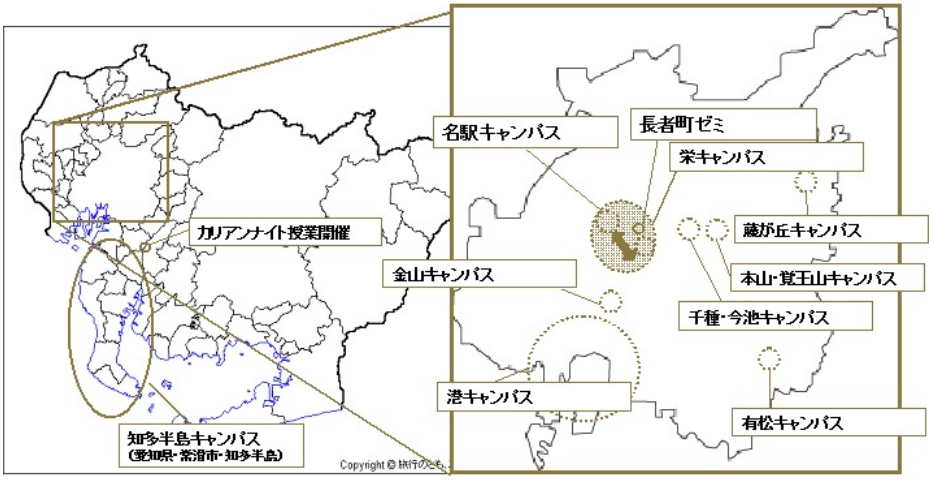
一方、観光としての「まちづくり観光」の側面での可能性、地域からの期待を元に、「ナゴヤ」と周辺地域のつながりをつくることによって、可能性を感じるようになりました。

この基盤を整えていくためには、上記の図にあるように３つの観点、すなわち「授業・市民活動としての広がり（アウトプット）」と、「スタッフや参加者の成長、気づきや思いの共有（プロセス）」、「戦略的な見地で俯瞰し、政策・地域ブランディングの提言や「持続可能な仕組みづくり」につなげることが重要と捉え、「成長の3つの軸」を定義しました。

授業コーディネーターの充実や事務局スタッフの参画度合い、ステークホルダーとのコミュニケーションを充実させながら、優れた NPO としての機能を充実していきます。

地域では名古屋市内をより細分化するとともに、「名駅地区」から「栄地区」への賑わい拠点やつながりづくり、各地域で授業を行い、点から線へ、面へと広げる活動を行っていきます。

# 大ナゴヤ大学の地域展開




Dai-Nagoya University Network, all rights reserved

# コラボレーション実績

【企業協賛・コラボレーション授業】
・アサヒビール株式会社様 「〇長さんとカンパーイ！」シリーズ（全 4 回実施）
・日本たばこ産業株式会社様 「おとな学科」
・株式会社 博報堂 「こどもごころ製作所」様 「たった一枚のナゴヤ」
・株式会社 新東通信様・ピースグラフィックス様との協働活動 「地球の生物部」
・Radio-i 様「ランドスケープ・ミュージック」
・中部日本放送（CBC）様 「大ナゴヤ・ラヂオ」（年末特番。12 月 28 日放送、2 時間番組）
「月曜ごごイチ」スピンオフ企画
「月曜ごごイチ」生涯学習コーナー（毎週月曜 12:29 より放送中）
・NPO 法人久屋エコまちネット様、三晃社様 「ミツバチ授業」
・マルシェ・ジャポン・なごや様 「マルシシェでカービング体験」 授業。食ゼミマルシェ出店
「被災地支援マルシェ」
・株式会社デンソー様 「DECO スクール」ワークショップ
・コンテンツワークス株式会社（Photoback）様
大ナゴヤ大学・文化部『本づくりを愉しむ会（全 5 回）』
「〇長さんとカンパーイ！」シリーズ photoback ご利用
・名古屋パルコ様 「名古屋 PARCO で泥んこバレンタイン」
・ぬちぐすいワンズ様 「『はじめての登山』。～登山の『いろは』を学んでみよう！」
・中日新聞・mozo 様 「中日新聞×大ナゴヤ大学 親子で参加しよう！
mozo で“みどりのともだち研究室”」
・三重県「伊勢茶を学ぶ」お茶育ツアー企画
・リベラル社 甲斐みのり著「なごやのたからもの」（企画・制作参加）

【企画・運営サポート】
・カッコーツアー様 「武将都市ナゴヤ おもてなしバスツアー」
（財団法人名古屋観光コンベンションビューロー「平成 22 年度武将都市ナゴヤ魅力発掘事業」）

【行政等とのコラボレーション】
・愛知県警察様 防犯マインドの啓発活動
・名古屋市： COP10 生物多様性交流フェア『名古屋市ブース』のアートディレクション
・名古屋都市センター、名古屋市交通局ご協力 【地下鉄 名城線すごろく】地域発掘授業
・名古屋市オープンサロン 『名古屋市職員向け特別授業：オープンサロン』
・名古屋市開府 400 年記念アカリナイト 「アカリアカデミー」
・長野県飯田市 「下栗の里」研修旅行
・愛知県職員のための特別授業～ 「大ナゴヤ大学×職員交流会」
・国連地域開発センター「生物多様性と地域開発」イベントサポート
・なごや環境大学様 「地球の生物部 と なごや環境大学」（シリーズ授業）
・名古屋市市民経済局
「声で楽しむ、旅の物語― 観光ルートマップ―『なごや旅12話』記念イベント
～外国人と一緒に楽しむ名古屋城登城ウォーキング～」

【市民とのコラボレーション】
・NGO ア∞ス様「あなたもナゴヤのヒーローになれる！ごみ拾いレンジャー体験授業！」
・ブックマーク・ナゴヤ様 関連授業
・長者町、錦 2 丁目街の会所、あいちトリエンナーレ 2010 連携 「長者町ゼミ」
・中川運河キャナルアート実行委員会様 「中川運河キャナルアート応援授業」
・金山商店街振興組合様「食ゼミ：マルシェ金山会場 出店」
・中部フェアトレード学生ネットワーク 328様 「フェアトレード授業」
・NPO 法人子宮頸がん啓発協会 シンクパール様 「みんなで考える、子宮頸がんのお話」
・栄 4・5 丁目 散歩廻様 「スニーカー授業」

【コラム連載など】
・中部経済新聞 「大ナゴヤ大学 学長が経験する『社会起業』とは」（全 12 回 終了）
・スパイマスター東海版 「名古屋イチ 受けたい講義」（連載中。全 12 回）

Dai-Nagoya University Network, all rights reserved

# 大ナゴヤ大学が目指すもの

DAI-NAGOYA UNIVERSITY NETWORK

大ナゴヤ大学

初めてのシリーズ授業となった文化部の「なごや本」。開校前のオープンキャンパスより参加していた方より「大ナゴヤ大学」という制作した本をプレゼントしていただきました。

帯の部分には「生まれ育ったこの街のことを、わたしは何も知りませんでした。知らないという事にすら気づきませんでした。ほんのすこし。勇気を出して、扉をあけてみる。一歩ふみだせば、世界はぐんと広がるものです。」

「ナゴヤが大好きになりました。もっともっと知りたくなりました。」

わたしたちの活動の目指しているもの、活動の原点など、全てがこの中に凝縮されていました。

ひとりひとりは、個の存在でも、「ナゴヤ」という場所、空間、心的距離の中でお互いが自分の得意な分野を持ち寄り合う。そして、誇りや自信、勇気をもつ一歩となるような取り組みを続けて行くことで、より豊かな社会やコミュニティを形成できるものと思います。

授業や「なごやのたからもの」などの本の出版、自発的なそれぞれの活動などの周辺活動を通じ、参加者や関わった人々が新たな一歩を歩み出す、その一助となりたいです。

まだまだ、市民・企業・行政やNGO・NPOなどがつながるプラットフォームとしては程足りない道筋ですが、集う仲間、スタッフとともに、自立・継続可能な NPO として、日本中・世界へのお手本となるモデルを目指し取り組んでいきます。

＜運営団体名称＞
特定非営利活動法人 大ナゴヤ・ユニバーシティー・ネットワーク

＜事務局所在地＞
〒460-0011 名古屋市中区大須 3-42-30 ALA 大須ビル 1B
株式会社クーグート　気付（大須オフィス）
※定款に定める「主たる住所」は、「名古屋テレビ塔4F」

代表者名： 加藤慎康（かとう しんやす） 理事長・学長
電話番号： 070-5459-8213
FAX 番号： 052-262-6658 （株式会社クーグート）
E-mail： dai-nagoya@univnet.jp

設立（開校）日 2009 年 9 月 12 日
法人登記日 2009 年 12 月 25 日

＜目的＞
1. 広く一般市民に対して、社会教育に関する講演会やイベント、小中学校の総合的な学習への授業カリキュラムの提案等の事業を行い、あらゆる世代の人々が生涯にわたって学び続け、いきいきとした生活が送れる社会の実現に寄与する。

2. ナゴヤに関わるすべての人々がナゴヤの魅力を身近に感じるよう、これまでのナゴヤ、これからのナゴヤの魅力を発見し発信する活動を、「地域密着型の生涯学習」・「新しい地域コミュニティづくり」を通じて実践・継続する。

3. これらの活動を、多くの団体・個人と協力しながら実現する為の「プラットフォーム」としての存在価値を見出し、地域振興を図り、地域経済の活性化に貢献し公益の増進に寄与することを目的とします。

＜活動内容＞
社会教育の推進を図る活動
まちづくりの推進を図る活動
学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
子どもの健全育成を図る活動
情報化社会の発展を図る活動
経済活動の活性化を図る活動

＜理事会＞
理事長
加藤慎康
理事
髙橋佳介、 原田有紀枝
山之内琢治
監事
岡本直人

＜編集＞
生駒郁代、大野嵩明

**Web サイトをご覧下さい。**
Web: dai-nagoya.univnet.jp
E-mail: dai-nagoya@univnet.jp

Dai-Nagoya University Network, all rights reserved